

本市のごみ収集の現状と課題への対応方針

【第 1 回検討委員会でのごみ処理に関する主な意見】

○ 分別について

- ・分別区分を増やすことが、市民の意識向上につながるのではないかと。
- ・分別区分の見直しは、回収にかかるコストを考慮する必要がある。
- ・一部のごみを市が回収せず、集団資源回収にする方法もある。
- ・分別区分を増やすことは、特に高齢化が進むなか、家庭の負担が増加する。

○ 戸別収集について

- ・戸別収集は画期的な方法で、ステーション方式は集積場の管理が大変と聞く。
- ・ステーション方式はコストは低いが、慣れている戸別収集から変えるのは難しいのではないかと。
- ・戸別収集はコストが高く、費用対効果を考えたときにいつまで続けることができるかが課題。

○ 危険ごみについて

- ・リチウムイオン電池の回収を検討していただいた方がよい。
- ・環境省から自治体が回収するよう通知が出たが、処理ルートの確立と、回収の仕方が課題。

【ごみ収集の現状】

○ 分別区分と収集体制

本市では、乾電池を除き、計画路線収集（戸別収集）を基本とし、東部地域の一部ではステーションによる収集としており、祝日を含む月曜日から金曜日まで、39台の全ての収集車（パッカー車）が稼働し、収集を行っています。

分別区分	収集頻度	回収方法	収集運搬
燃やせるごみ	週 2 回	計画路線収集 (戸別収集) ※一部ステーション収集	市 (委託)
燃やせないごみ	隔週 1 回		
缶・びん・ペットボトル	隔週 1 回		
プラスチック容器包装	週 1 回		
粗大ごみ	電話申込制		
乾電池	—	回収ボックス設置 (拠点回収)	市 (直営)

○ ごみ処理費用

令和 5 年度のごみ処理費用は次のとおりです。

	費用 (千円)	収集・処理量 (t)	トン当処理 費用(円/t)	市民 1 人当処 理費用(円/人)
処理経費	3,050,444		43,330	12,805
収集費	1,006,472	47,914	21,005	4,225
処理費	2,043,972	91,554	22,325	8,580
焼却	1,408,349	75,043	18,767	5,912
資源ごみ	189,911	4,907	38,702	797
その他プラ	102,589	2,651	38,698	431
埋立	343,123	8,953	38,324	1,440
歳入	1,076,573			4,519
市負担額	1,973,871			8,286

R5 人口：238,213 人 (R6.3.31 現在)

○ ごみの回収方法

	戸別収集	ステーション収集
特 徴	住民が各戸別にごみを排出し収集を行う方法	集積場所まで住民がごみを運び収集を行う方法
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・排出者個人の責任が明確 ・ごみ出しルールを守ってもらいやすい ・住民同士のトラブルが少ない ・住民がごみを運ぶ手間が少なく利便性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別収集よりも収集効率が高い ・戸別収集と比べて経費が安い
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ステーション収集よりも収集効率が低い ・ステーション収集と比べて経費が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・排出者個人の責任が不明確 ・違反ごみ等の排出者の特定が困難 ・集積場所や責任者の選定が困難 ・堆積するごみの量が増えるため悪臭や散乱の原因となる ・集積場所までごみを運ぶ必要があり、利便性が低い

上記以外に拠点回収があり、本市では、公共施設等に回収ボックスを設置し、乾電池のほか、蛍光管や衣類、小型家電などの回収を行っているほか、民間会社による段ボールや衣類等の多品目の回収を行っています。また町会等による集団資源回収で新聞雑誌や雑がみ、金属類などの回収を行っています。

【課題への対応】

○ 製品プラスチックの収集

法の施行による製品プラスチックの分別収集や再商品化の取組が求められており、資源の有効利用や二酸化炭素排出削減の観点のほか、廃棄物処理施設の整備等の財源である循環型社会形成推進交付金の交付要件になっていることから、製品プラスチックの効果的・効率的な分別収集および再商品化の実施に向け、早急に検討を進めていく必要があると考えています。

○ リチウム蓄電池や当該蓄電池を使用した製品の収集

リチウム蓄電池を起因とする収集車や廃棄物処理施設における火災の発生が全国的に頻発しており、本市においても今年度、ごみ収集車の火災が発生しています。

こうした中、国では、自治体において分別収集体制を構築するよう通知を発出した一方、製造事業者等によるリチウム蓄電池単体に限らない回収を義務化する方針も打ち出したところです。

このような現状を踏まえ、国の方針や製造事業者の対応等を注視しながら、効果的な防火対策を今後も引き続き検討を進めていく必要があると考えています。

○ びんの収集

びんは現在、最終処分場の路盤材として再利用していますが、びんの再商品化を図るには、色別に分けるためびんを割らずに収集する必要があり、現在のパッカー車による混合収集ではなく、単独収集もしくは平ボディ車による収集など、収集体制や収集台数を見直す必要があります。

びんの収集体制の見直しに当たっては、現在の缶・びん・ペットボトルの組成分析調査を行い、収集時間を算定したうえで、平ボディ車の必要台数や収集方法の検討など、見直しによる費用対効果を検証していく必要があるため、検討を続けていきたいと考えています。このほか、地域の資源回収に排出する方法も考えられます。

○ その他資源化が可能なごみ（衣類等）の収集

その他資源化が可能な衣類や段ボール、雑がみなどについては、引き続き、地域の資源回収や民間の拠点回収により資源化を図っていきたいと考えています。